姫路医療専門学校 自己点検・自己評価

令和４年度（令和４年４月1日～令和５年3月31日）

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1　教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	教育理念・目的・養成人材像は、明文化・文章化されており、事業計画に目標・方法等を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。 常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。 事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。 今後は、教育をとり巻く環境変化や学生の質的変化に対応するため、地域における活動や業界との連携を深めつつ、カリキュラムにはキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、３つの建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）の実践、４つの信頼（学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。 業界の人材ニーズは常に業界講師の方々や臨床実習先の指導者と情報共有を行い、その把握に努めている。教育課程編成委員会においてもニーズ、将来性などを聞きとり、新たな教育活動に取り組んでいる。開校して６年を経て、３年制の学科は第３期生を業界に送り出した。今後は、卒業生の就業後の状況の把握を行い、教育活動に反映させていく。 地域の救急医療への貢献のために、新たに救急救命士科を新設する。現在、設置計画が受理され開講の準備を進めている。これにより、リハビリ系２学科、救急医療系２学科の学校としての特色ある教育活動を行っていく。	4	「いつも笑顔で挨拶を」は貴校の特徴になっていると思います。 学科の見直し・新設が適宜行われているのは良いことなど思います。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2　学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。運営方針は学校事業計画書内に理念、目標、具体的な計画等と関連づけて明文化している。	事業計画の構成は、組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)、運営方針(中期的に組織として目指す方針)、実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)、定量的目標(入学者・教育成果<中退防止・国家試験合格数>・就職率等)、定性的目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)、実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)、組織図、職務分掌、部署ごとの計画・スケジュール、意思決定システム、収支予算書(５ヵ年)で毎年作成している。	4	
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者（決定権者）は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。 会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。 組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行ってい。	職員の職場に関するアンケートを実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。 学校運営を活性化させ教職員の成長を図るためにも、学科・部署毎だけではなく、学科・部署間の横の連携を図る各種委員会を置いて、課題解決に取り組んでいる。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか		人事・給与に関する制度も就業規則に明示されている。			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。	問題解決サイクル（問題発見⇒問題分析＋仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証）を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できている。学校運営を円滑に進めるには、個人レベルでの継続的なスキルアップが必要である。		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別、において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。	業務の効率化と同時に、学生一人ひとりの情報を一元管理することにより、学生への様々な支援や求められる人材の養成や国家資格取得に結びつけることが出来る。その学生支援の精度を高め、またＤＸ化の取り組みも行っている。		

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3　教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	厚生労働省による養成施設指定規則に従い、教育課程の編成と実施方針を定めている。 教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年・学期目標」を学生に明示している。 毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像を調査し、その見直しと確認を行っている。 業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の授業を計画、実施している。　授業には、各業界の専門職の方々を講師に召還し、学生の状況を把握しての意見を頂き、臨床実習においても、その評価を教育課程編成に反映し、また「教育課程編成委員会」を設置して教育課程を編成している。 キャリア教育は学校行事や課外活動においてその目的・目標を定めて実践している。 授業評価は専任教員に対して行っており、仕組みも整備された。Ｒ５年度からは講師も含め、全教員で実施する。内容の緻密な検討を行い、より質の高い授業展開が出来る評価内容を検討し常に教員・講師との連携を深めフィードバックできる環境を維持する。	学生の職業理解を深め、学習のモチベーションの向上を図るために、卒業生の授業、行事への参加を積極的に推進し、各自の将来像を明確化する教育プログラムも実施している。 「実践力」向上のために、全学科でＯＳＣＥを実施し、外部講師や卒業生に参加して頂き、外部視点での評価を導入して教育に活かしている。 「キャリア教育」については、学園グループで策定した「キャリア教育ロードマップ」に基づき、「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践し、専門知識・技術のみならず職業人として必要な力を身につけるプログラムを実施している。 具体的には、臨床実習で現場から評価を頂ける「身構え・気構え・心構え」を身に着けることを目標に、令和４年度は、まずは気持ちの良い挨拶・身だしなみができることを目標に対策を講じた。また、キャリア教育も含まれる授業や学内行事においては、セルフマネジメント、チームマネジメントを特に意識して実施している。	4	知識と人間性の高揚は重要です。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4			4	外部意見も取り入れて教育課程を再編成するなど、改善の柔軟性があると感じます。 他の学科との交流によって気付くこともあり、お互いの学習意欲向上になると思いました。 学位、修士取得を含めた生涯教育について、就職後の必要性も含めて、更に啓発されても良いかと思います。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。進級判定会議を開き、議事録も記載保存している。 授業では、研究発表の機会を設け、発表会・報告会で成果を把握できるようにしている。臨床実習報告会では全学生が発表を行い、臨床実習における成果を把握し、下級学年の学生も参加して臨床実習の準備学習としている。 取得目標資格は教育課程上明確に位置づけられており、国家資格取得の対策は、1年次から平常授業のみならず、国家試験対策講座等を行い、卒業時までのフローで計画をしている。また学力不足の学生に対しては個別面談から学生の到達度に応じて、補習や補講など様々な取り組みを実施している。	履修規定や当該年度の教育目標は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。 国家試験対策については、滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、学園が設置する国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策ができる体制が整備されている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。自宅学習支援や国家試験対策問題を活用できるe-leatningの学習環境も整っている。 学力の向上だけでなく、「専門職業教育」と「キャリア教育」をフローで行う教育の構築を目指し、国家試験に合格できる人間力も養っていく。 指導体制は、担当教員を配置し学科全教員で指導していく。過去の実績の分析を行い、１年次から国家試験合格のための、新たな学習能力開発の仕組みに取り組んでいる。	4	臨床実習、研究発表など学生の意欲関心向上にとっていい機会てす。10年後を見据えて貴重な経験から起業などを志す学生が出てくる可能性もあると思います。 学生に履修と修得の違いをしっかり教えてあげてください。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3				
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4			4	
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	各科ともに「養成施設指定規則」の規定に基づき、また、学科の到達目標を達成するために、その分野のスペシャリストである事が採用条件である。教員は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。 教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルの研修会を実施している。 教員組織は目標実現のために学科内外の情報を共有し、チームワークを必要とされる。各学科会議、運営会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。	教員の研修参加については、研修のオンライン化が進み、各種研修の受講機会が増えた。 キャリア教育や国家試験対策、学習能力開発の分野では委員会活動を活発化して、成功事例や対策の共有を行い、教員組織の連携とチームワーク向上を図っている。	4	教員に他の方の良い授業を見てもらうことは技術や意欲の向上に良いと思います。 現場からの講師の方による授業は、実際の現場の達成感や難しさを肌で感じることができていると思います。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
4　学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	キャリアセンターを設置して求人先の確保を行い、担任と連携して学生の就職活動の支援を行っている。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。将来の就職を見据え、臨床実習先の開拓も続けている。	就職対策講座を２年生からスタートし計画的に行っている。現在の課題は、第一志望先への合格率を向上させることで、試験対策（の意識づけ）を早期に行うことを強化している。	4	就職先のニーズに合う人材育成のためのマーケティング調査をされてはいかがでしょうか。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	国家試験合格率の向上のためには、前年度の分析を行い、1年次からの国家試験対策準備授業、2年次からの模擬試験など3年間のフローで対策を立てることが重要と考えプログラムを実施している。また、学習面だけでなく、生活面、精神面の指導も行っている。	グループ校の同分野の教員で構成される教育部会に参加し、資格試験全員合格のための仕組み作りに注力している。国家試験不合格者には一人ひとりの計画を立て合格のための卒後サポートを行っている。 各学科とも卒業生による受験生の動機づけを行い、委員会で学科を超えた成功事例の機会拡大を行っている。また、１年次からの対策も委員会で行っている。	3.7	グループの連携が取れているのは良いと思います。 日々の小テストなど資格に必要な知識をコツコツ覚えていく事はできています。 不合格者の卒後サポートは双方のモチベーションなど大変だと思いますが、継続してください。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	「卒業生の就職先での評価」は教育成果の評価基準のひとつであり、卒業生の就職先への聞き取り調査を計画している。業界の求める人材育成に努めていく方針で、卒業生も業界の一員として聞き取り調査を計画している。	現在、入職後１年後の離職調査を行っているが、第１期生が就職４年目を迎える次年度から、就職後３年後の離職調査とアンケートを行う。	3.7	学校として卒業生のフォロー策を推進してください。
5　学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	入学時から就職準備のプログラムを実施している。キャリアセンターを設置し、求職活動、求人情報の管理、就活セミナー、就職対策講座の開催、個別就職活動支援、面接指導などを実施している。	病院説明会は７３施設がオンラインで参加して頂き実施、就活セミナーは卒業学年だけでなく、２年生も参加し、早期内定を目指す意識付けを行っている。卒業生を活用した仕組みもスタートしている。	4	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	退学防止のために入学前から学生一人ひとりを見ることに重点を置き、学生の諸問題の早期発見と学習面、生活面のサポート体制を整備している。教員の教授力、サポート力の向上のための研修も行っている。次年度以降も、さらなる体制の整備、教職員のスキルアップを目指す。	滋慶学園グループが独自に開発整備した学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。 学業不振からの退学率低減のために、１年次・２年次の学生のうち、読解力・計算力・資料読解力などの学習を必要とする学生に対して、新たな学習能力開発サポートの仕組みをスタートさせた。仕組みの改善を重ねていく。 朝の挨拶運動は挨拶の習慣化とともに、教員が日々学生の顔色を定点観察する、学生が他学科の教員ともコミュニケーションが取れることも目的としており、問題の早期発見に役立てている。	4	精神面でのカウンセリングによるフォローはとても良いと思います。学校の先生方にもよくフォローして頂いていて安心しています。 生活面は特に人間関係の指導を重視してください。また、学生の実態や本音を拾いあげることが重要だと思います。
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学習面、メンタル面・健康面、経済的な問題などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。必要な学生には、学内のスクールカウンセラーを配置し、カウンセラーと教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。学生の多様性、個別性によるより一層の教員研修の必要性を感じている。 留学生は現在在籍しておらず、今後整備が必要である。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、研修を受けた職員を配置、事務局職員による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受け、奨学金や学費ローン等アドバイスをしている。 健康面、生活環境支援では、日常的に担任による欠席理由の把握、学生面談での聞き取り、健康診断後の再検査の必要性の周知など体制は整備している。学生の変化に気を配り注意している。 県外学生(需要)が少ないことから学生寮はないが、一人暮らしの学生への生活面のサポートも行っている。 学友会活動として課外活動を支援する体制の整備はできている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。 健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。 コロナ禍科で学生のクラブ活動はまだ動いてはいないが、レクリエーション大会や学園祭（リコルス祭）など対面で実施できた。 成人年齢の引き下げやＳＮＳトラブル対策など、安全な学生生活のためのセミナーなどは随時行っている。	4	様々な取り組みが行われていると感じます。学生側のニーズや満足度を知ることができる仕組みがあると良いと思います。 課外活動は学生の本音がわかる機会でもあります。活用されてください。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4				
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3				
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3				
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	本校のミッションである職業人教育や就職、学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。	入学前の３月の保護者会は、コロナ禍のためオンラインにより実施、学校の考え方、支援方針と体制をご理解頂き、保護者に学校との協力をお願いした。ご不安がある方は来校での相談も促した。欠席が３日以上続いた場合や、学業不振などの課題がある学生は、保護者と連携して協力体制をとり学生サポートを行っている。	4	
5　学生支援	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	本校の方針として「卒業後の自己実現、キャリア開発」のための卒後教育を実施する計画である。多職種連携ができるような学科を超えた、同窓会活動をめざし、卒業生・業界対象の講演会、研修会、勉強会を行う予定であり、在学中から学生に伝え、卒業後の学生と学校との関係構築を見据えている。	第１期生から言語聴覚士科は神戸医療福祉専門学校三田校の言語聴覚士科と合同で、オンラインによる研修会を毎年実施している。また、新卒者だけを対象に職場の状況の情報収集と卒業生フォローのためのオンラインプチ同窓会を実施した。３学科ともに卒業生を授業やキャリア教育に積極的に招いくとともに、同窓会活動への軸づメンバーづくりを行った。	3.8	卒業生への支援と連携が、職種と学校の認知度向上になることを期待したいです。 出口に対する目標がないと離職率が上がるのではないでしょうか。
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

項目	点検項目	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
6　教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4	実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	各学科とも、厚生労働省指定養成施設基準を満たしている。ICT教育環境の推進のため全館WiFiを整備している。	4	実習室の設備など、素晴らしいと思います。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	建学の理念、実学教育・人間教育・国際教育のもと、カリキュラムに学外実習を計画的に配置している。各科とも見学実習、学外実習、臨床実習を実施し、体制も整備されている。「国際教育」を実施するにあたり、マニュアル化・体制の整備をさらに進めていく必要がある。	厚生労働省による各養成施設規定で定められている臨床実習のほか、1年次から学校独自で各学科ともに学外施設で行う見学実習プログラムを実施している。また、隣接する保育園での交流授業は実施したが、高齢者施設では中止となった。令和４年度もコロナ禍で海外研修は実施できなかったが、令和６年度スタートに向けて計画していく。	3.5	学外活動ができているのは良いことです。 海外研修や海外インターシップ制度ができれば良いと思います。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	防災体制については、防火管理責任者を配置し、防災計画作成と防災訓練を実施している。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認するシステムも構築している。開校から５年間は学生数の増加が大きいので、防災訓練、安全管理体制は毎年見直す必要がある。	令和４年度も新型コロナ感染拡大防止のため、マニュアルを整備・随時改訂し教職員・学生・保護者に周知して、対策を講じた。 校内の安全は、環境衛生委員会で教員の意識を高め、管理センター職員が常時巡回を行い、注意を払っている。	4	
7　学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	4	兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料は、上記の定めたルールに遵守したものとなっている。高等学校への訪問で本校への理解を頂き、高等学校のご意見を直接聞いている。ホームページにおいても上記のルールを遵守したものになっている。	本校職種の認知を向上するため、本校職種に限らず幅広く職業理解や適性の発見が行えるように、高等学校内の職業説明会などに参加している。 学校と職業認知のためのＷＥＢやＳＮＳ上の広報を強化し、職業理解のためのオープンキャンパスを実施している。	4	現状に即した広報活動へ改善を重ねていると思います。コンスタントに結果を出すことは難しいことですが、分析を通じて今後も頑張ってほしいです。 知らない方が多い職種の募集活動は難しいと思いますが、WEBやSNSで認知度を上げていく努力をして頂いて、とてもうれしく思います。 オープンキャンパスで一番好感がもてるのは学生の笑顔、あいさつ、対応が思う以上に効果があると思います。いつもの人を大切にする心を十二分に発揮してください。
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	アドミッションポリシーを明確にし、ホームページでの掲載や学校説明会で説明をしている。学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により合否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。 また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、目的意識ややる気を重視した入学選考を継続する。コロナ禍で高校生の進路活動が減った影響を鑑みて、入学前教育において、職業理解や目的意識が強化できるように改善を行った。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師、教職員）、実習費、施設運営費等に当てられている。 毎年、各学科において教科書・教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。 また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明記して対応している。	入学以前の募集要項や説明会において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたってのアドバイスを実施している。		
8　財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 ５ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員の充足率１００％を目指し、退学率の低減を図る。令和４年度は退学者は少なく抑えられたが、入学生は前年度と異なる学科が苦戦した。全学科揃っての定員確保が今年度の課題である。	4	学校運営のためにも基盤だと思います。定員割れの養成校が多い中、貴校の実績は素晴らしいと思います。全ての教職員の協力とグループの支援の力だと感じています。
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	５年を見越した収支計画も作成しているが、単年度予算についても、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックしているので適正な執行管理になっているものと考える。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の監事からの意見が述べられている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1　私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。＜公開書類＞１．財産目録２．貸借対照表３．収支決算書４．事業報告書５．監査報告書		

項目	点検項目	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
9　法令等の遵守	9-32-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4	
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学内で個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が中心となり運用している。教職員に対しては、個人情報保護責任者は認定CPOアカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を習得。教職員は、認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得した。それぞれ更新講習に取り組んでいる。学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員学生においては、更なる理解を深め、定期的な研修を開催し、意識を高めていおく必要がある。	外部機関の「ＴＲＵＳＴｅ」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。学生と講師に対しては、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。		
	9-34-1　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	平成30年度(開校)年度の自己点検・自己評価を令和元年度から開始し、結果をホームページに掲載している。令和2年度からは学校関係者評価委員会を組織・開催し、評価に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組んでいる。結果はホームページで公表している。	下記ＨＰアドレスにて情報公開している。 http://www.kmw.ac.jp/about/joho		
	9-34-2　自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4　学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	教育情報、教育活動はホームページに掲載しており、情報公開は行っている。			
10　社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	職業教育を通して社会に貢献することが本校の使命であり、学校の理念「4つの信頼」の中で、地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られることを行動の指針としている。学校行事の学園祭は地域貢献を目的として、また、医療系専門職の教育は地域の医療・福祉活動に参加を推奨している。キャリア開発の一助として高校での医療系職種説明会等にも講師を派遣している。「建学の理念」に国際教育を掲げており、グローバルな視点と感性を持ち、外国の方たちともコミュニケーションが取れる医療人材になることを目的として「コミュニケーション英語」の修得や２年次には「国際教育」の教育プログラムも実施している。	令和４年度はコロナ禍以前の活動に戻りつつあった。作業療法士科2年生が授業の一環として「たつの市障がい者スポーツ大会～らく(楽)スポでえーがいや!」の企画を提案し、当日運営にボランティアで参加させて頂いた。地域の城巽地区のイベントにも参加させて頂いた。兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア意識促進のための体験学習や高校のインターシップを受入れた。 国際教育の一環として行う海外研修に関しては、以前から神戸医療福祉専門学校三田校との合同開催を検討していたが、年度当初に中止が決定した。	4	ボランティア活動も再開されていて良好です。活動の企画や内容は充実してきていると思います。感染症収束のタイミングで活動が増えることを期待しています。
	10-36-2 国際交流に取組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	学生には地域や施設でのボランボランティアは積極的に推奨しているが、実施実績が少ない。全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する。	令和４年度はボランティア推進担当教員を配置し、年度当初から積極的にボランティア参加を推奨した。学校推奨ボランティアの参加は８企画・延べ学生数約１００名。３年ぶりとなる「姫路城マラソン 救護ボランティア」も参加できた。		